

## 那珂川系アユ種苗の採卵が始まりました！

2023. 9. 15 水産試験場

那珂川に早期に遡上してきたアユ（4月4～5日に那珂川町で採捕）を親魚とした種苗生産が栃木県漁連種苗センターで始まりました。アユの種苗生産では、天然遡上アユを親魚として育て採卵しています。

種苗センターで現在飼育している那珂川系は、2016年に那珂川で採捕した天然遡上魚を親魚とした種苗で、今年で7代目となります。このような継代（養殖魚を親魚として使うこと）が進むほど、養殖場では飼育しやすくなりますが、河川環境への適応力の低下が懸念されるようになります。こういったことから、定期的に親魚として天然遡上魚を導入して、河川環境への適応力を回復させる必要があります。

そこで、前述の天然遡上魚を水産試験場と那珂川北部漁協の飼育池で飼育し、採卵に備えてきました。天然遡上魚からの採卵は、これまで10月下旬以降になってしまうことがほとんどでしたが、今回は早期遡上魚を採捕したおかげか、9月に成熟個体がかかり出てきました。

まずは、9月7日に戻し交配種苗<sup>※1</sup>（天然親魚オス×継代メス）の作出を実施しました。今後は、成熟状況を確認しつつ、オス、メスともに天然遡上魚を使った種苗の作出を目指していきます。

※1 戻し交配種苗：作出が比較的容易。千葉県では冷水病耐性の向上が報告されている（<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2030921451.pdf>）。



写真1 成熟した親魚を選ぶ様子

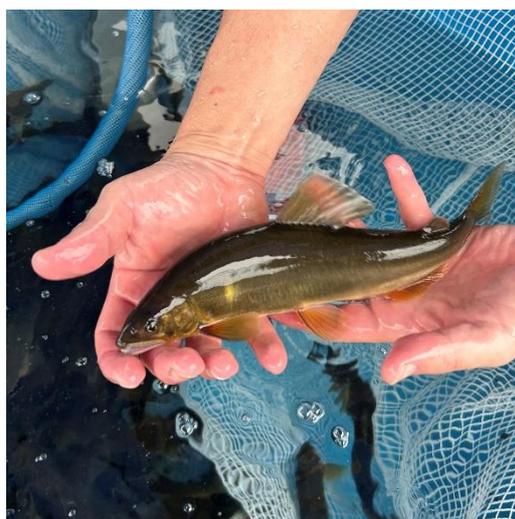


写真2 成熟した天然遡上アユ（オス）

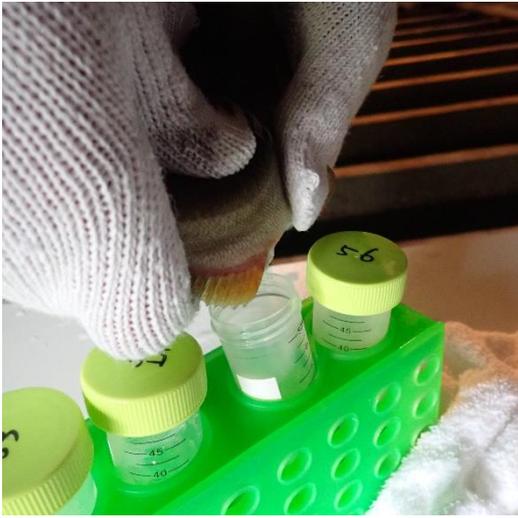


写真3 オスから精子を絞る様子  
(個体別に検査し、魚病にかかっていないことを確認した精子のみを使用)



写真4 戻し交配の様子  
(卵と精子をよく混ぜ、一気に水を加えて受精させる)